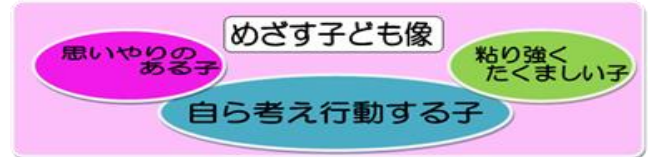




めざす学校像

互いに認め合い、高め合う学校
みんなが安心できる居心地のいい学校
開かれた学校（学校・家庭・地域がつながりあうことを大切にする学校）



いつもここに (は)た(付) (の)び(の)び 野畑 合言葉 (ほ) バリアフリーで 笑顔がいっぱい (た) 体験 楽しい 学びたい (計)画(立)て(て) 相談 確認

本日 9月23日、1学期の「のびゆくこども」を子どもたちにわたしました。 学習評価の在り方ハンドブック - 国立教育政策研究所より

本年度の1学期は、6月1日に始まり8月7日までという異例なものでした。いつもの年なら、6月末までの学習の様子を評価するのですが、今年は、8月7日までの学習の様子を評価するために、本校では1学期の「のびゆくこども」の発行を2学期としました。

そして、本年度から本格実施となった新学習指導要領に基づいた評価について保護者の皆様にお話ししてから渡すために個人懇談後の9月23日を子どもたちに渡す日としました。「のびゆくこども」を見た子どもたちが、自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるように、各担任は子どもたち一人ひとりと1学期の学習の様子について話し、これからの学習に向かい方について確認しながら「のびゆくこども」を手渡しました。

出席のようすについて

- 授業日数** 6月1日～8月7日の日数 (6年生は、5月25日～)
- 欠席日数** コロナ関係以外で休んだ日
- 出席停止** 分散登校の日の登校しなかった日
体調不良や発熱のため休んだ日
感染拡大防止のため自粛した日
- 臨時休業** 4月8日～5月31日の日数 (6年生は、5月22日まで)

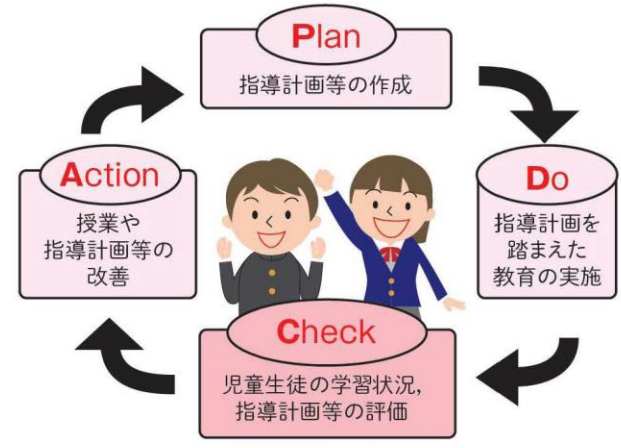
以上のように記入しています。
複雑ですのでご不明な点がありましたらお問い合わせください。

学習評価の基本的な考え方

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするために、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。

カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

各学校は、日々の授業の下で児童生徒の学習状況を評価し、その結果を児童生徒の学習や教師による指導の改善や学校全体としての教育課程の改善、校務分掌を含めた組織運営等の改善に生かす中で、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っています。
このように、「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。



主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化を図るためには、児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することによって、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切です。平成29年改訂学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っています。

- ✓ 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ✓ 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ✓ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



詳しくは、平成31年3月29日文科科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要領の改善等について（通知）」をご覧ください。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1415169.htm)

コラム 評価に戸惑う児童生徒の声

「先生によって観点の重みが違うんです。授業態度をとても重視する先生もいるし、テストだけで判断するという先生もいます。そうすると、どう努力していけばいいのか本当に分かりにくいんです。」(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ第7回における高等学校3年生の意見より)

あくまでこれは一部の意見ですが、学習評価に対する児童生徒のこうした意見には、適切な評価を求める切実な思いが込められています。そのような児童生徒の声に答えるためにも、教師は、児童生徒への学習状況のフィードバックや、授業改善に生かすという評価の機能を一層充実させる必要があります。教師と児童生徒が共に納得する学習評価を行うためには、評価規準を適切に設定し、評価の規準や方法について、教師と児童生徒及び保護者で共通理解を図るガイダンス的な機能と、児童生徒の自己評価と教師の評価を結び付けていくカウンセリング的な機能を充実させていくことが重要です。